

夢の始まり

森野 水琴

彼には夢がある。

より美しく表現するという夢がある。

その夢は手を伸ばせば届きそうなところにある。

あと一歩だと思い進むと、夢もまた一歩先に進む。

その場にとどまっていると、夢もとどまるのだが、いつもの表現しかできなくなってしまう。

急いで追いかけようとすると、夢も同じ速度で先に行き、追いつくことができない。

ゆっくり進みながら日本語を磨いていくしかなさそうである。
果てしない夢を追いかける旅が始まる。